

## 序 文

保育に関する話題は大都市周辺での待機児童が大きな社会問題となっている。解決のためには保育園の入園希望児の把握と定員増、保育士の確保とされ、保育士不足は給与の低さがあるので改善すべきとの声が聴かれる。処遇の低さは社会が保育士の仕事内容、重要性、専門性、学歴、資格について適切に評価を行ってこなかったことに起因すると思われる。給与の改善が必要であることは明らかだが、これ以外に保育士の仕事は、子どもの人生に大きな影響を与える先生であると捉え、社会、保護者が重要な仕事と認識し、信頼と感謝の気持ちを持ち、保育士が仕事のやりがい、誇りを持てる職場環境を実現しなければ多少の給料の増額だけでは離職は減らないであろう。

保育において本来議論しなければならない課題は、就労支援の立場からの保育制度でなく、子どもの視座に立ち子どもの健全な発育・発達を促す保育内容と子どもの安全が保たれ保護者が安心できる保育園とするための議論が必要であるが、ほとんどみられない。本書では安全な保育を行うための知識、実践力を高めるために必要なことについて述べた。子どもの生活の全てについて触れられなかったが、基本になる考えについてはポイントを押さえるようにした。

本書は「保育園における事故防止と安全管理」の姉妹編として出版されたもので、手元に置き必要ときに参照してもらえれば幸いである。同書と「保育園における危険予知トレーニング」の2冊は中国語に翻訳され中国の保育士にも利用される予定である。

話は変わるが3～4年前に京都に住んでいた時、比叡山で千日回峰行を二度万行された酒井雄哉天台宗大阿闍梨による護摩焚き法要に参加し、お話しをする機会を得た。ご挨拶し、最後に握手をしていただき、私が「お元気にお過ごしください」と話ししてしまった。「現代の生き仏」とされる高僧に向かって大変失礼なことを言ったのではないかと迷っている。年長者に対し自然と出た言葉であるとはいえ大阿闍梨さまから私にお言葉を賜るのであればよいが、私が話したことについて良かったのか心配しており、天国でお目にかかった際にはお詫びしようと思っている。比叡山での千日回峰行を知ったのは、30年以上前に父の仕事の手伝いで天台座主に御挨拶に行ったときである。その後酒井雄哉大阿闍梨の御著者を何冊か読んでそのお考えを知り、生と死、人の道はいかなるものかを考える機会となった。内容は決して難しいお話でなく、俗世をよく理解したうえで示唆に富んだ内容なので敬愛していた。

とりとめなく書いたが、本書が日本の将来を担う子どもたちと保育士の皆さんに少しでもお役にたてば幸いである。